



駐日大使は語る⑦

駐日カナダ大使 イアン・マッケイ

駐日大使は、各国の正式代表として日本に常駐する唯一の存在。大使の目に、日本外交はどう映るのか。カナダのマッケイ大使に、G7の役割やインド太平洋の重要性などを聞く。

Ian G. McKay

クィーンズ大学で経営学修士号を取得。国際金融市場でキャリアを積み、自由党のナショナルディレクター、バンクーバー経済委員会CEOなどを歴任。2018年には対日特使としてCPTPPのカナダの最終交渉を補佐。21年4月より現職。

インド太平洋へ外交シフト G7で連携深まる日本・カナダ関係

【インタビュー・構成】小南有紀

——大使の初めての来日は、高校生時代の一九八〇年だったそうですね。

大使 まず北海道池田町で一カ月間ホームステイして、その後、山口県下関市の高校で一年間学びました。この時に、日本の人々の親切さに触れるとともに、日本文化の魅力を知りました。九〇年代には、ユーロブローカーズ東京の代表取締役として東京で生活しました。それから約二五年後に再び大使として日本に戻ってきたわけですが、現在でも

東京はダイナミックで活気あふれる、安全な都市ですね。私はまた、日本各地を旅しており、例えば伊豆半島の下田市でよく休暇を過ごします。日本食も彩り豊かで大好きです。

——経営者としての長いキャリアをお持ちですが、駐日大使に任命された時の心境はいかがでしたか。

大使 駐日大使という職に就くことは、とても名誉なことだと感じました。大使としての責務を果たすためには、常

に全力で仕事に取り組まなければなりません。大使の日々の仕事は、とてもエキサイティングなものです。この仕事を通して、自分がどれほどカナダと日本を愛しているのか再認識しています。

外交力で平和と安定に寄与

——カナダは多文化主義を掲げる国ですね。

大使 カナダは「移民の国」であり、移民こそが我が国の経済と文化を支えています。カナダは一八六七年の建国以来、世界中からの移民を歓迎しており、言語・服装・祝祭などの文化的な多様性が尊重されています。ビジネスだけでなく、スポーツや教育、ボランティアといったさまざまな分野で、移民はカナダの原動力となっているのです。

——国際社会において、カナダはどのような外交的役割を志向していますか。

大使 カナダの歴史が英国人とフランス人が移り住んだことに始まるように、我が国はヨーロッパと強く結びついています。一方、隣国の米国とも強固な関係を築いており、カナダはヨーロッパと米国の間で外交の舵取りをしてきました。このような経験から、我が国は外交において歩み寄りや信頼がいかに大切かを学んだのです。私はカナダが

培ってきた外交力を、誇りに思っています。

カナダは日本とも強い絆で結ばれています。両国は価値を共有するパートナーであり、経済的な関係も強固です。国連や世界貿易機関などの枠組みでも、両国は緊密に協力しています。

——カナダは北大西洋条約機構（NATO）の加盟国です。ロシア・ウクライナ戦争に対するカナダの立場はどのようなものですか。

大使 ロシアによるウクライナ侵略が始まってすぐに、我が国は最も強い言葉でロシアの行為を非難しました。我が国は二〇一五年からウクライナ軍兵士の訓練を行っており、今回の戦争でもウクライナに対し、最初に軍事的・経済的支援を行った国の一つです。さらに、対ロシア経済制裁などでも、カナダは日本を含むG7諸国と連携しています。

——現在、米国と中国の間でも緊張が高まりつつあります。

大使 米中両国は、非常に大きな経済力と軍事力を有する国家です。いうまでもなく、戦争は誰にとっても望ましいものではありません。まさにロシアに対するG7の対応のように、世界が侵略行為を認めることはないと中国に示す必要があります。大きな外交力を持つカナダと日本が手を

携えて、地域の平和と安定に寄与できると考えています。

インド太平洋へシフト、深まる日本との協力

——日本・カナダ関係の歩みについて、大使はどのような見えておられますか。

大使 両国は長年にわたって緊密な協力関係にあり、「同盟国」といつてもよいでしょう。近年、カナダは日本へのエネルギーと食料の輸出を増やしており、日本のエネルギー安全保障と食料安全保障の力になることができます。

さらに、カナダにおけるAIやサイバー技術の発展は著しく、経済安全保障の分野でも我が国は日本のパートナーです。例えば、電気自動車バッテリーのサプライチェーンを中国が席巻していますが、カナダと日本は新たなサプライチェーンの構築で協力しています。また、トルドー首相と岸田首相がお互いを信頼し合っていることも、両国の連携の原動力となっています。

——カナダはインド太平洋地域への関心を強めていますね。

大使 冒頭で申し上げた通り、カナダは歴史的にヨーロッパおよび米国と強く結びついてきました。それゆえ、二〇二二年一月にカナダが「インド太平洋戦略」を発表したことは、大きな外交上のシフトだといえます。同戦略

はインド太平洋地域が二世紀の政治的・経済的な中心になるという認識に基づき、五つの柱——①平和、強靭性、安全保障の促進、②貿易、投資、サプライチェーンの強靭性の拡大、③人的投資と人のつながりの拡大、④持続可能でグリーンな未来の構築、⑤インド太平洋へのパートナーとしての積極的な関与——で構成されています。

カナダにとって、日本はインド太平洋地域における最も強力なパートナーです。カナダは日本との間で培った深い協力関係を、他のインド太平洋諸国との間にも拡大したいと考えています。日本周辺の安全保障環境にも大きな関心を持っており、地域の平和と安定のために防衛分野での日本との協力も拡大していきます。

——大使は首相の対日特使として、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）」の最終交渉を補佐されました。

大使 トルドー首相から私に与えられた任務は、TPPを「包括的及び先進的」なものに格上げすることでした。なぜなら、貿易協定は人権、労働基準、ジェンダー平等、加盟国の発展などに配慮したものでなくてはならないからです。この協定の包括性と先進性を実現する上で、カナダは大きく貢献できたと自負しています。カナダと日本の二



2023年1月11～12日、岸田首相はカナダのオタワを訪問し、トルドー首相と会談した(内閣広報室)

国間を見ても、貿易はいつそう活発化しており、まさにCPTPPの成功例だといえるでしょう。

——五月にはG7サミットが広島で開催されます。

大使 カナダは一九七六年にメンバーに加わって以来、G7の枠組みを非常に重視してきました。G7広島サミットは、核兵器使用がどれほど悲惨な結末を招くのかを、あらためて世界に発信する機会になるはずです。現在、ロシアが核兵器使用をちらつかせています。日本周辺でも、北朝鮮が核兵器・ミサイル開発を活発化させているのに加え、南シナ海や台湾海峡での中国の挑発的な行動も続いています。このような情勢で、G7サミットが広

島という場所で開催される意義は大きいのです。

——日本とカナダの間では、七二組の姉妹都市提携が結ばれており、人的交流も活発です。

大使 私の出身地、ブリティッシュ・コロンビア州ペンティクトン市は北海道池田町と姉妹都市提携を結んでおり、私が高校生の時に池田町でホームステイしたのもその縁です。現在の私があるのは、両国の自治体同士の友好関係のおかげだといっても過言ではありません。

文化、学術、スポーツ、芸術といった分野でも両国の人的交流は活発です。実際に、在日カナダ大使館では、併設されている高円宮記念ギャラリーでカナダの芸術作品を多数展示しているほか、さまざまなイベントを開催し、両国の国民同士がお互いを知る機会をつくっています。

カナダは日本の一八〇歳の方々向けに、ワーキング・ホリデー・プログラムを提供しており、このプログラムを使えば最大一二月間、カナダで就学、就労、観光をすることができます。ぜひたくさんの方々の皆様に、カナダに来ていただきたいですね。

カナダと日本の関係が今後ますます発展していくことは、間違いありません。大使館は一九一丸となって、両国のさらなる友好のために全力を尽くします。●